

## 下水道の仕事

辻 乃生

小郡市立 三国小学校

わたしは、社会科見学で宝満川浄化センターに行きました。そこで、下水道の役わりや、下水をどうきれいにするかななどについて、たくさん教えてもらいました。

下水道の役わりは、五つあります。一つ目に、生活かんきょうのはいぜん、二つ目は、トイレの水洗化、三つ目は、しん水の防じよ、四つ目は、公共用水いきの水質保全、五つ目に、持続かのうなじゅんかんがた社会のこうちくです。このように、下水道の役わりがあることで、みんながより住みやすい市町村になるのです。

次に、下水はどのようにしてきれいになるかというと、まず、下水道にあるポンプ場で、汚水をくみあげます。その次に、下水管を使って下水を運び、沈さ池で汚水中の大きなゴミや土砂を沈めてとりのぞきます。その後、最初沈でん池、反応タンク、最終沈でん池を通かし、汚れやゴミを沈めます。反応タンクでは、汚水にび生物の入った活性汚泥をまぜて、空気をふきこみ、汚れを沈みやすくする工夫がされています。最後に、水質検査で処理した水が、川や海に流せるかどうか検査し、消毒設備を通して、川や海に放流されます。わたしは、機械だけではなく、び生物の力をかりて汚水をきれいにしていると知り、「すごいなあ。」と感心しました。ほかにも、最初は、沈でん池が二つあることにふしぎに思ったりもしました。けれど、沈でん池が二つあることで汚水がきれいになるといふ、沈でん池の大切さも分か

りました。他にも、汚水をきれいにした時に出てきた汚泥を集めて、いろいろな方法で処理をする汚泥処理設備などがあるそうです。

わたしは、宝満川浄化センターを見学して、いつも当たり前に使っていた水がきれいなのは、下水道の役わりや、下水処理場のおかげだと、宝満川浄化センターを見学しなければ分かりませんでした。このように、浄化センターがないと、水が使えなくなったり、汚水を使うことになったりします。だから、宝満川浄化センターは、とても大切なしせつだと思えます。